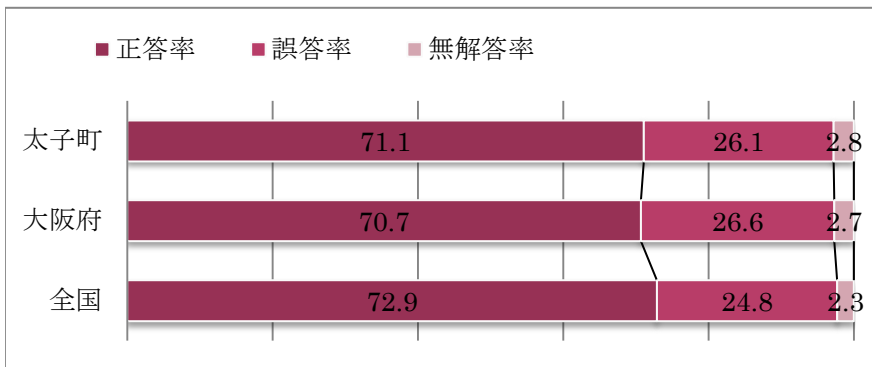


平成26年度 全国学力・学習状況調査

国語 A

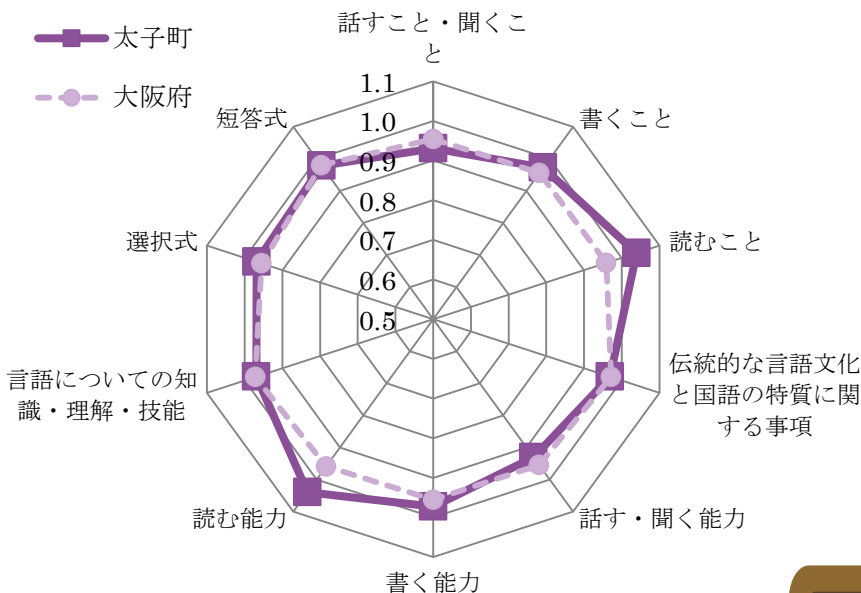
正答率比較



全国の平均正答率が、72.9%であるのに対し、太子町の平均正答率は71.1%であり、1.8ポイント下回った。



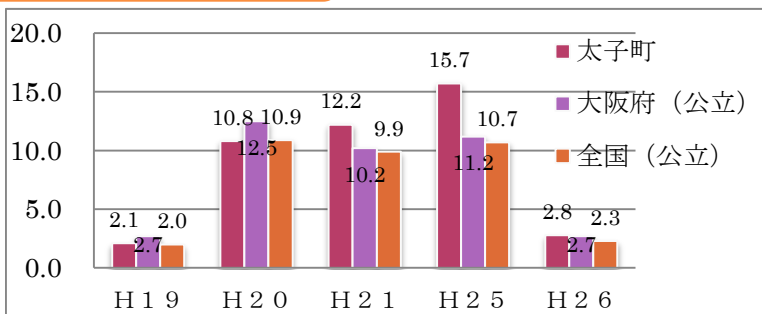
全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



「読むこと」、「読む能力」が全国平均を上回っている。一方、「話すこと・聞くこと」、「話す・聞く能力」が低い値を示しており、話し合いの観点に基づいて情報を関係づける力に課題がある。

成果と課題

無解答率



無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年は2.3ポイント、平成25年は5ポイントだったのが、今年度0.5ポイントと全国との差は縮まりつつある。



「話す・聞く能力」が全国および府の平均正答率より低く、昨年度から引き続き課題が残る結果となった。また、漢字力については、設問によって差はあるものの、比較的正答が多く、漢字学習の取り組みの成果がみられる。「読むこと」「読む能力」が全国平均を上回っている。さらに、児童アンケート調査の「読書が好き」の項目も全国平均を上回っており、学校での取組の成果が現れている。

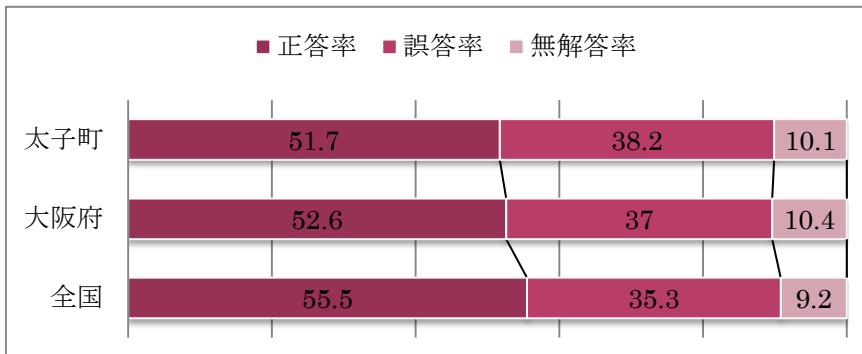
「無解答率」は、昨年度より大幅に改善したが、今後も授業での基礎基本の徹底はもちろんのこと、話を聞いたり、人前で話す取り組みをさらに進めていくとともに、家庭での学習についても質量を見なおして取り組む必要がある。



平成 26 年度 全国学力・学習状況調査

国語 B

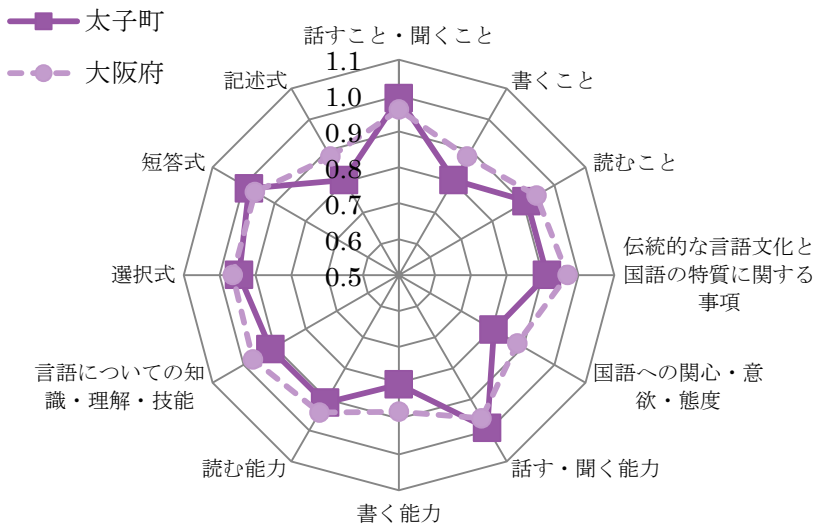
正答率比較



全国の平均正答率が、55.5%であるのに対し、太子町の平均正答率は、51.7%であり、3.8ポイント下回った。



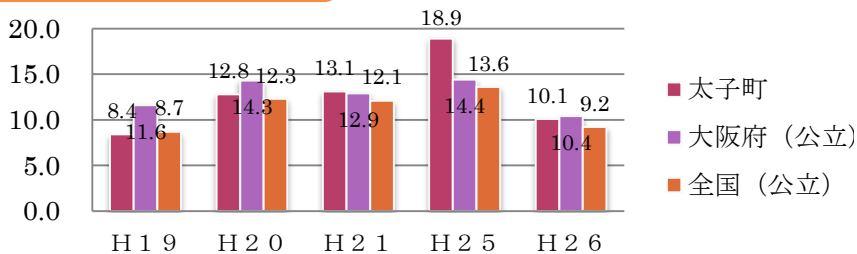
全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



「書くこと」が低くなっており、「立場を明確にして、質問や意見を述べる」ことはできているが、「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く」ことができていない。また、二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える技能・知識・理解する力に課題が見られる。

成果と課題

無解答率



無解答率は、昨年度より大幅に改善し、今年度は0.9ポイントとなり、全国との差は縮まりつつある。



書く能力・記述式問題について全国および府の平均正答率より低く、昨年度から引き続き課題が残る結果となった。本年度も「書く力・記述式問題」について課題が見られ、特に「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながら考えて書くこと」を問う設問で、正答率が20%を下回る結果となった。

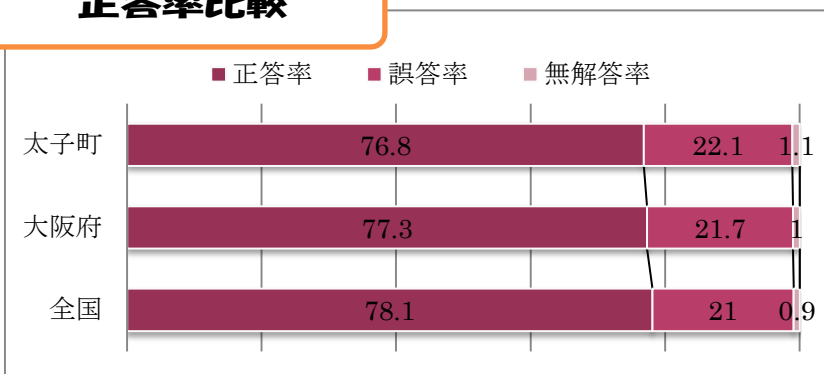
一方で、児童アンケート調査の国語に対する意識については全国平均より高いものが多く、授業改善が進んでいることがうかがえる。

今後、自分の考えを理由がわかるように記述する内容を授業の中に取り入れ、さらに言語活動の充実をはかる必要がある。

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査

算数 A

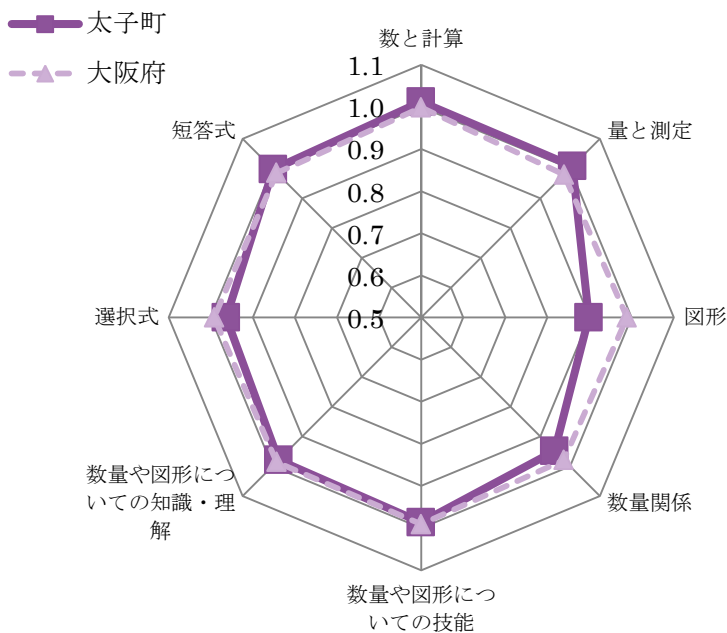
正答率比較



全国の平均正答率が、78.1%であるのに対し、太子町の平均正答率は76.8%であり、1.3ポイント下回った。



全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



「数と計算」の中の計算問題については、全国平均を上回っており、基礎基本の定着が進んでいる。一方で、「図形」のうち作図に用いられている図形の約束や性質の理解に課題が見られる。

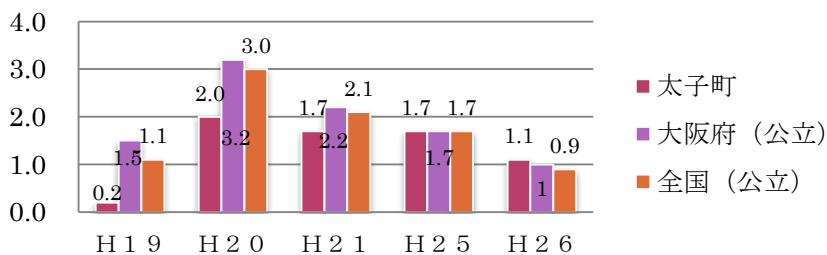
成果と課題

昨年度より改善傾向は見られるが、全国および府の平均正答率より下回る結果となった。特に、二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表す問題は、全国および府と比べて9ポイント以上低い正答率になっている。また、コンパスを使った平行四辺形の約束や性質を理解する問題も正答率が45%を下回る結果となった。

一方で、計算問題は一定の成果が見られ、計算タイムや習熟度別授業などの取り組みの結果がでてきている。

今後、さらに基礎基本を定着させるとともに、図形の性質や特徴を理解させる授業づくりを進める必要がある。

無解答率



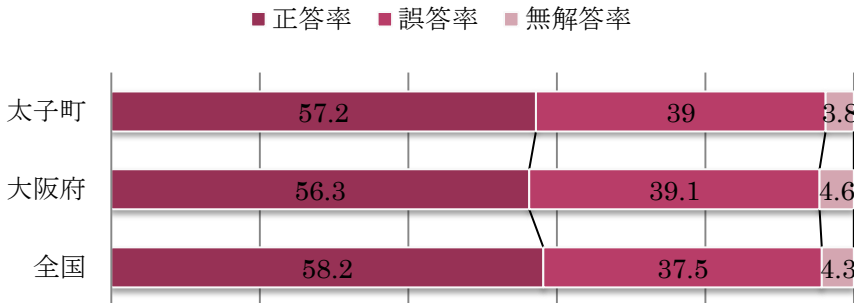
無解答率の全国との差を経年比較すると、昨年度に比べて、無解答率の数値は、0.6ポイント低くなった。しかし、平成19年～平成21年にかけては、全国より低い値であったが、今年度は全国より0.2ポイント高くなっている。



平成 26 年度 全国学力・学習状況調査

算数 B

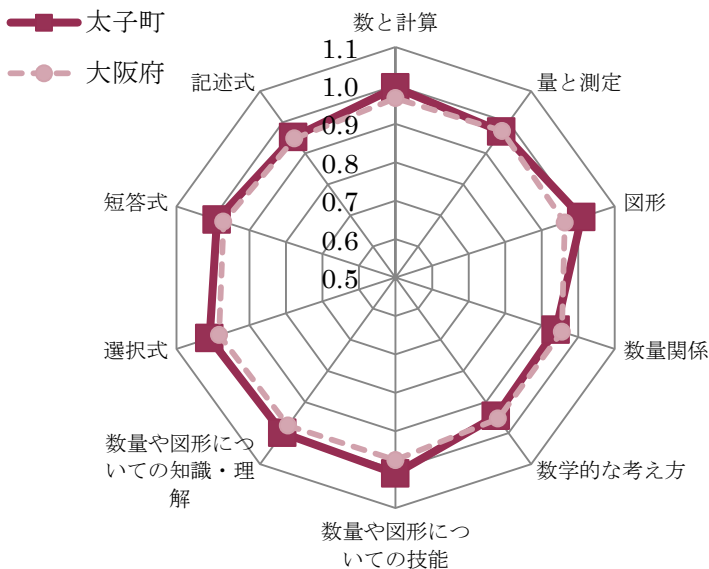
正答率比較



全国の平均正答率が、58.2%であるのに対し、太子町の平均正答率は57.2%であり、1ポイント下回った。



全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



「量と測定」のグラフや時間を求め記述する問いの正答率が低くなっている。また、記述式や数学的な考え方の分野は全国平均より低くなっている。一方で、図形の問題で平面に4つの長方形をしきつめる問題の正答率は高くなっている。

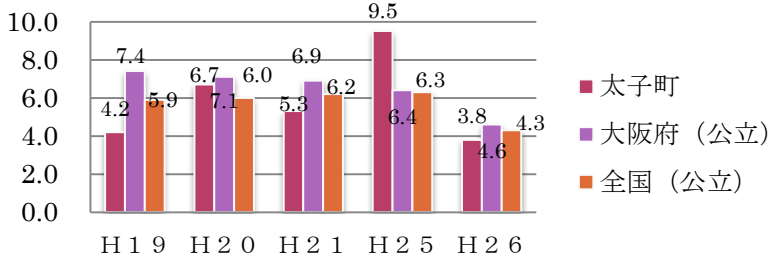
成果と課題

主として「活用」に関する問題が出題されるB問題について、昨年度より改善傾向が見られる。無解答率も全国平均を下回り、問題に対する意識が改善された。

そのような中で、「数量関係・記述問題」や「数学的な考え方」に関する問題の正答率が低くなっている。また、「算数が好き」、「生活の中で活用できないか考える」の数値は昨年度より改善したが、全国平均を下回っている。

今後さらに授業改善を進め、生活と結びついた内容を取り扱う必要がある。また、授業の中で筋道を立てて考えた過程について振り返り、ノートに記述する活動の充実を図る必要がある。

無解答率



無解答率の全国との差を経年比較すると、昨年度より大幅に下がっている。また、平成26年度は、全国平均よりも0.5ポイント低くなっている。

